

## 但馬初の全天候型陸上競技場誕生！

### 「陸上競技場」リニューアルオープン事業開催

豊岡総合スポーツセンター「陸上競技場」が、全天候型陸上競技場として、リニューアルオープンしました。6月4日、新しくなった陸上競技場の完成を祝い、記念セレモニーと市民陸上記録会を開催しました。

新しい競技場は、トラックにゴムチップウレタンを舗装し、雨天時でも競技が行いやすくなった他、従前の土のトラックに比べ、良い記録が期待できます。



▲30mの試走式(左から椿野市議会議長、中貝市長、玄武岩の玄さん)



▲新しくなった全天候型の陸上競技場

また、写真判定装置の導入で、記録は、日本陸上競技連盟の公認記録として認定されます。

セレモニーでは、テープカットの後、中貝市長、椿野市議会議長、玄武岩の玄さんが、30mを試走。続いて行った記録会では、小学生、高校生、社会人が参加し、100m走、800m走、1500m走、5000m走、走り高跳び、やり投げの競技を行いました。

## 6月1日からUターン勤務！

### 高橋診療所長 太田秀明さん就任

このたび、縁あって高橋診療所に勤務いたすことになりました。豊岡市城南町の出身です。これまでは大阪府内の大学や病院に勤務し、専門の小児科をはじめ、高齢者医療や緩和医療、訪問診療にも携わってまいりました。

乳幼児のお子さんから高齢の方まで、患者さんやご家族に寄り添う気持ちを大切に

して、但東地域の地域医療に貢献できるよう、精一杯努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

太田秀明



高橋診療所長 太田秀明

## 自然や風土を映像にしたための

### 風景映像「豊岡スケッチ」完成

四季折々の風景や出来事が詰まった風景映像「ふるさとスケッチ」。平成23年から地域ごとに制作し、今回、豊岡地域を撮影した「豊岡スケッチ」が完成しました。

撮影は、但馬出身の映像作家の藤原次郎さん。まるでスケッチをするように撮影され、優雅で流れるような映像は、見る人を引き込みます。この映像は、住む人が地域に誇りと愛着を深め、世界の人々へ本市の素晴らしさを伝えます。



▲「豊岡スケッチ」の映像  
※市ホームページ(豊岡市ムービーライブラリー)から閲覧できます。



## 主な市政の動き

### 5月

- 17日・平成28年熊本地震の避難所運営業務に職員派遣(26日)
- 18日・豊岡市図書館未来プラン検討会議
- 19日・豊岡市行政改革委員会
- 25日・「チャレンジデ12016」参加
- 26日・豊岡市地域福祉計画策定委員会

### 6月

- 1日・一般社団法人豊岡観光インベシヨン設立
- 第2回職場対抗「歩キング」選手権(30日)
- 3日・市議会定例会開会(29日)
- 4日・「陸上競技場」リニューアルオープン事業開催
- 6日・豊岡市障害者福祉計画策定委員会
- 7日・第12回水害サミット(東京)
- 27日・豊岡市総合教育会議
- 30日・豊岡市男女共同参画社会推進懇話会

## 韓国からコウノトリ野生復帰を視察！

### 韓国の「コウノトリ初放鳥の地」忠清南道禮山郡」の郡守来訪

5月26日、韓国でコウノトリの野生復帰に取り組む忠清南道禮山郡から、黄全奉郡守をはじめとする視察団が来訪しました。本市と禮山郡は、平成25年に「コウノトリ野生復帰に関する友好交流合意」を締結しています。

同団は、県立コウノトリの郷公園やコウノトリ文化館で、コウノトリの保護増殖の説明を受けた他、ラムサール

条約湿地であるハチゴロウの戸島湿地で、湿地生態系保全の取組みを視察。その後、本庁舎で中貝市長と会談しました。会談で、黄郡守は「豊岡からは、学ぶことが多い」と話し、市長は「コウノトリは、さまざまなことを教えてくれる。たくさん学んでほしい」とエールを送りました。コウノトリが、つなぐ日韓の架け橋は、これからも広がり続けます。



▲コウノトリ文化館を視察する黄郡守(左から3人目)ら

## ビクトリア大学の学生が芸術文化で国際交流 「ドラマティックコミュニケーション」日本語「コミュニケーション講座」開催

5月25日から6月5日まで、城崎国際アートセンターで、カナダのビクトリア大学の学生との国際文化交流を図る「ドラマティックコミュニケーション」日本語「コミュニケーション講座」を開催しました。

講師は、同大学准教授の野呂博子さんと本市芸術文化参与の平田オリザさん。同大学で日本語を学ぶ7人の学生が、コミュニケーション教育推進事業モデル校の三方小学校で目指します。



▲滞在中に気付いた日本の文化的要素を日本語劇で発表するビクトリア大学生ら

## 中貝市長の徒然日記 104

### 祝ひな誕生！

昨年韓国イエサン郡で放鳥された8羽のコウノトリから1組のカップルができて、今年の5月20日、2羽のひなが誕生しました。

韓国では、1971年にペアのオスが撃ち殺されて事実上絶滅したとされています。野外でのひな誕生は、少なくとも45年ぶりの快挙です。

5月20日は、日本の野外で43年ぶりにひながかえったのと同じ日です。豊岡はその日を「生きものの共生の日」という記念日としています。

5月26日、イエサン郡のファン郡守が市役所にお越しになり、ひな誕生の報告をいただきました。ひなが生まれたカップルの親鳥(ひなのジイジとバアバ)4羽のうち3羽は、コウノトリの郷公園から韓国に贈られた鳥でした。

こんな会話もありました。ファン郡守「韓国から日本まで飛んでいった鳥が死んだのは残念なことでした。でもその際に、豊岡の人たちがあ

ちこち連絡して捜していただいたことに感謝しています」。

韓国で放鳥された1羽が、昨年11月26日、沖永良部島に飛来した、との情報が入ってきました。ほくたちは色めき興奮し、島の町当局に連絡して行方を捜していただくようお願いしました。残念ながら、島の空港で飛行機の乱気流に巻き込まれて死亡したようだと、の情報が入ってきました。

中貝「GPSで飛行経路を見る限り、あの鳥は本能的に中国の越冬地を目指して飛び立ち、折からの強風で東に流されながら飛び続けたような気がします。途中で鳥はありません。迷いに迷いながら飛び続け、やっと見つけた陸地が沖永良部でした。したがってあの鳥は、絶望のうちに死んだのではなく、生きる希望の中で死んだのだと思います。それがせめてものことです。沖永良部の人々には自らを責めないでくださいと話しています」。

ファン「私も、悲しむより韓国の鳥が日本まで飛んだことを喜びたいと思います」。

友あり遠方より来る、です。